報　告　事　項　2

報告事項名　　第２回「特別支援学級運営充実検討委員会」の会議概要について

特別支援教育課

第２回「特別支援学級運営充実検討委員会」の会議概要について

１　日　時　　令和４年２月１８日（金）　午後２時から午後４時まで

２　場　所　　徳島グランヴィリオホテル　１階　グランヴィリオホール

３　出席者　　委員　１０名中９名出席
　　実践発表者として，板野町板野南小学校の吉野校長が出席

４　会議次第
（１）開会
（２）県教育委員会挨拶
（３）事務局及び委員等からの説明
　○鳴門教育大学発達臨床センターとの連携について（小倉委員より）
　○事務局からの説明①
　　・徳島県におけるスクールワイドPBSの取組について
　○板野南小学校「みなみWAプロジェクト」の取組について（吉野校長より）
　○加茂小学校「校内支援体制」の取組について（久原委員より）
　○事務局からの説明②
　　・関係機関等との連携について
（４）事務連絡
（５）閉会

５　委員等からの発表内容
（１）鳴門教育大学発達臨床センターとの連携について（小倉委員より）
・学校コンサルテーションを実施するとともに，将来教員になる大学生やリーダーになる現職の先生方にも，特別支援に関わる専門性が育つような仕組みづくりについて提案いただいた。
・鳴門教育大学と連携するモデル校を設置いただきたい。

（２）板野南小学校における「みなみWAプロジェクト」の取組について（吉野校長より）
・校内支援体制の要として，「ポジティブな行動支援」の取組は，学校全体をマネジメントしていくための重要なツールであるとの説明があった。
・児童が特別支援学級で学んだことについて，交流学級でもできるようにするとの思いから，校内における支援の共有化の取組について紹介があった。

（３）加茂小学校「校内支援体制」の取組について（久原委員より）
・短時間で行う「校内支援委員会プチ」の取組や「支援ニーズ表」と「アイデア集」の作成・運用について紹介があった。
・１人の児童の支援を全教職員がチームとなって支援していく「校内支援体制」の考え方や仕組みづくりについて提案いただいた。

6　協議の柱

（１）校内支援体制の充実・連携強化について
（２）関係機関等との連携について

7　検討委員会委員から出された主な意見

（１）校内支援体制の充実・連携強化について

＜教育機関・学校関係＞

・校内支援体制において必要なことは，「相談できる人がいる」，「相談できる場所がある」ことだと思う。直ぐに解決はできなくても，悩みを聞いてくれたり，共感してくれたりといった心理的なサポートの場が日常的にあることが大切だと感じる。

・「ポジティブな行動支援」のような分かりやすい支援を学校全体で行うことにより，交流学級や特別支援学級でも楽しく過ごし，学べる環境が整うと，子どもも保護者も安心するので，このような環境は大切であると感じた。

＜保護者＞

・学年集会では，子どもができるようになったことを発表すると，交流学級の友達が子どもの良いところを見つけて，本人や保護者に伝えてくれるようになり，子どもも友達から認められることが嬉しくて，大きく伸びたと思う。

＜障がい福祉関係＞

・福祉の分野でも「ストレングス支援」という，本人の強みを生かして，本人の力を伸ばす支援方法に変わってきている。本人自身が他の児童生徒から認められることが，満足感を高め，自己肯定感につながっていくと感じている。

（２）関係機関等との連携について

＜教育機関・学校関係＞

・最初に関係機関等へ連絡する時には，垣根が高いと感じる。「誰に」「どうやって」といった「相談ノウハウ」を教員全体に対して周知することにより，関係機関との連携がもっとスムーズに進むと思う。

＜保護者＞

・様々な事例の解決策を蓄積している特別支援学校のセンター的機能を活用し，特別支援学校も含めた県下の特別支援学級が定期的にオンラインでつながり，事例検討をする取組が有効であると考える。

・将来を見据えて継続的に支援が必要な時には，教育関係者だけでなく，保護者や親の会などが蓄積しているノウハウや情報を活用いただきたい。

8　今後の予定

３月２２日（火）　第３回「特別支援学級運営充実検討委員会」
議題（予定）：報告書（案）の検討